

# 2024年度 福田学園校友会 総会

日時 2024年5月12日（日）10:00～16:30（9:30受付開始）

会場 大阪保健医療大学1号館 ※現地開催のみ

対象者 福田学園校友会の正会員・準会員に限らず、どなたでも参加可能です。

参加費 無料

## ◎ 記念講演（10:00～12:00）

『リハビリテーション領域におけるShared Decision Makingの実践』

講師 尾川 達也 先生

- ・西大和リハビリテーション病院 理学療法士
- ・健康科学博士（畿央大学）
- ・日本地域理学療法学会 理事



## ◎ 総会（12:00～12:30）

◎ 部会研修会（13:30～15:30）職種問わず、どちらかお好きな研修にご参加ください。

会場① 『肩関節周囲炎・拘縮肩に対するリハビリテーション』

講師 郷間 光正 先生

- ・横浜石心会病院 理学療法士
- ・肩関節機能研究会株式会社 代表取締役
- ・スポーツ・運動器理学療法学修士過程



会場② 『安全に楽しい食事を支援するために  
～言語聴覚士、作業療法士の視点と経験から～』

講師

### 【作業療法部会】

池本 和博 先生

・福田学園校友会 作業療法部会長

井口 知也 先生

・大阪保健医療大学 作業療法学専攻 教授

渡部 雄太 先生

・大阪保健医療大学 作業療法学専攻 助教

### 【言語聴覚部会】

藤平 健太郎 先生

・福田学園校友会 言語聴覚部会長

前田 留美子 先生（OCR1期生）

・森ノ宮医療大学 言語聴覚学科

岩淵 宏美 先生（OHSU5期生）

・サポートハウス ココロネ住吉

川畑 武義 先生

・大阪保健医療大学 言語聴覚専攻科 助教

## ◎ ビンゴ大会（15:30～16:30）

ビンゴ大会は福田学園校友会正会員・準会員のみ参加可能となります。

参加申し込みは福田学園校友会HPからお願いいたします。



# 講演・研修会 抄録

## 記念講演 『リハビリテーション領域におけるShared Decision Makingの実践』

講師 尾川 達也 先生（西大和リハビリテーション病院）

Shared Decision Making（共有意思決定：以下、SDM）という言葉聞いたことがあるでしょうか。このSDMとは新しい介入方法ではなく、目標や介入を決める際に患者から同意を得る新しい方法になります。

私自身、過去を振り返ると理学療法士の嗜好で目標や介入を決定し、その内容を患者に説明し同意を得ていました。しかし、こういった言動の結果、一部の患者には受け入れてもらえず、場合によっては関係性が悪化し望まない帰結に至った事例も経験しました。患者の希望を尊重し、目標や介入を決めるというリハビリテーション専門職としての基本的態度なのですが、具体的な方法について学ぶ機会は非常に限られています。

本講演では、エビデンスの強みと限界、EBMの定義などを概説した後、研究論文やガイドライン、研修会等で得た知識をどのように患者へ適用し同意を取るべきなのかについて、グループワークも行いながら学んでいきます。

一部、グループワークがございます。

## 部会研修会① 『肩関節周囲炎・拘縮肩に対するリハビリテーション』

講師 郷間 光正 先生（横浜石心会病院）

肩関節疾患における最も一般的な症状は「肩の痛み」、それに次ぐのが「肩の動きの制限（拘縮）」です。痛みが強い炎症期においては、肩甲上腕関節や第二肩関節などの患部に機械的ストレスが加わることで、症状が悪化することがあります。この炎症期におけるリハビリテーションの鍵は、「肩甲帯（胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節）をいかに機能的に動かせるようにするか」にあります。

本研修会では、特に肩関節の評価から介入までの技術強化に重点を置きます。これらは教科書だけでは身につけにくい実践的なスキルです。「肩関節の治療に自信が持てない」と感じている方や、「理論知識はあるが実践スキルに不安を感じる」という皆様には是非ご参加いただきたいと思えます。

実技がございます。上半身は動きやすい恰好の準備をお願いします

## 部会研修会② 『食事動作に対するリハビリテーション』

講師 福田学園校友会理事

池本 和博 先生	藤平 健太郎 先生
井口 知也 先生	前田 留美子 先生
渡部 雄太 先生	岩渕 宏美 先生
	川畑 武義 先生

伝説の研修会復活！福田学園校友会名物のほんまでっかりリハビリテーション！！

今回、テーマを“食事”にフォーカスし、経験多彩な講師陣（OT&ST）が食事動作に関するリハビリテーションに切り込んでいきます。食事へのアプローチの基礎から、思わず声が出てしなうようなアプローチまで、参加者と共に学び、楽しみ、翌日からの臨床につながる知識を共有したいと思います。